学級規模の縮小は小学生の学力を高めるか
—学年による効果の違いに注目した展望（Article Scaffold 見本）—

神田 太郎・三崎 花子

2026 年 10 月 13 日

概要

本稿は，学級規模の縮小が小学生の学力に及ぼす効果について，学年による違いに注目して先行研究を展望した。準実験，相関，無作為化比較試験のいずれの研究でも，縮小の効果は第 1・2 学年で大きく，第 3 学年以降では小さいことが一貫して示されていた。ただし，低学年ほど学級の割り当てが無作為に近いという研究デザイン上の違いがあり，学年差の一部はこの違いを反映している可能性がある。高学年でも効果が持続したとする報告もあるが，原典を確認できていない。今後は，同じデザインで全学年を比較する研究が必要である。なお，本稿の文献はすべて見本用の架空のものである。

キーワード：学級規模，学力，小学校，学年差

1 問題

学級規模への関心　学級規模の縮小は，教育政策の中でも費用のかかる施策の一つであり，その効果が学年によって異なるのであれば，限られた資源をどの学年に配分するかの判断に関わる。学級規模の効果を推定した研究では，学級規模の定義そのものが研究によって異なることが指摘されている (和田, 2014)。

本稿の目的　本稿では，小学校における学級規模の縮小が学力に及ぼす効果について，学年による違いに注目して先行研究を展望する。あわせて，学年による違いを解釈する際に，研究デザインの違いをどう考慮すべきかを検討する。

2 学級規模研究の枠組み

2.1 学級規模の定義

学級規模は，在籍児童数で定義される場合と，教師 1 人あたりの児童数で定義される場合がある。わが国の学級編制の基準は在籍児童数で定められており，加配教員を含めた教師-児童比とは一致しない (和田, 2014)。

2.2 研究デザイン

本稿で取り上げた実証研究の概要を Table 1 に示す。無作為化比較試験は 1 件で，ほかは準実験，相関，追跡の研究である (Adams & Ruiz, 2012; Lee, 2021; Smith, 2019; 田中・佐藤, 2016)。

Table 1

本稿で取り上げた実証研究の概要（見本用の架空データ）

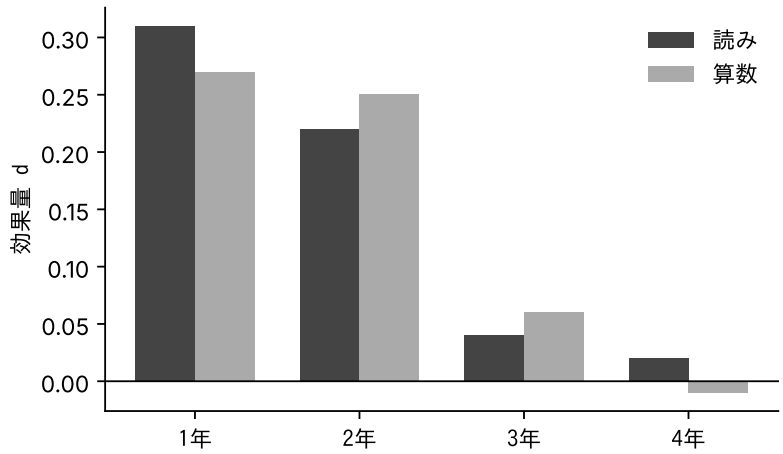
研究	国	学年	デザイン	主な結果
Adams & Ruiz (2012)	米国	K–3	無作為化比較試験	全体で小さな効果
Smith (2019)	米国	1–4	準実験	低学年で効果大
田中・佐藤 (2016)	日本	1	相関	国語で正の関連
Lee (2021)	韓国	1–6	追跡	効果は持続せず

3 学年による効果の違い

学級規模縮小の効果は，学年によって異なることが繰り返し報告されている。Figure 1 に，Smith (2019) が報告した学年別の効果量を示す。

Figure 1

学年別にみた学級規模縮小の効果量（Smith (2019) をもとに作成。見本用の架空データ）



低学年　縮小の効果は低学年で大きいことが一貫して示されている (Lee, 2021; Smith, 2019; 田中・佐藤, 2016)。Smith (2019) は，効果が第 1・2 学年では大きく，第 3 学年以降

ではほとんど見られないことを示した。わが国でも，田中・佐藤 (2016) が第 1 学年の国語について同様の結果を得ている。

中・高学年　一方で，Lee (2021) によれば，Brown (1985) は高学年でも効果が持続したと報告している。ただし，この報告の原典は確認できておらず，評価は保留せざるをえない。

4 今後の課題

研究デザインと学年差　学年による効果の違いは，教師の注意の配分だけでは説明できない。Smith (2019) の研究では，低学年ほど学級の割り当てが無作為に近かったことが著者自身によって指摘されている。学年差の一部は，こうした研究デザイン上の違いを反映している可能性がある。今後は，同じデザインで全学年を比較する研究が求められる。

引用文献

Adams, C. M. & Ruiz, P. (2012). Class size and the early years of schooling: Evidence from a randomized trial. *Journal of Example Policy Studies, 12*, 33–38. https://doi.org/10.0000/jeps.12.33

Brown, R. (1985). *Class size in the upper elementary grades*. Example State Department of Education.

Lee, H. (2021). Do early class-size effects persist?: A six-year follow-up. *Example Educational Researcher, 50*, 25–30. https://doi.org/10.0000/eer.50.25

Smith, J. (2019). Class size and achievement across grades. *Journal of Example Education Research, 41*, 401–406. https://doi.org/10.0000/jeer.41.401

田中 一郎・佐藤 次郎 (2016). 小学校第 1 学年における学級規模と国語の学力 教育心理学例示研究*, 64*, 85–90. https://doi.org/10.0000/kyo.64.85

和田 誠 (2014). 学級編制の基準と教員配置 ――在籍児童数と教師-児童比のずれ―― 例示大学教育学部紀要*, 40*, 55–58.